

令和4年度日本青年国際交流機構（IYEO）

活動方針および重点取組

I. 活動方針

共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう

人々の交流がより一層スピード感をもち、混ざり合うこれからの社会においては、幅広い視野を持って柔軟に新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされています。私たちは、世界につながる IYEO の全国ネットワークを活用し、青少年及び広く一般を対象に、多様な価値観と出会う楽しさを作り続けることによって、地域の国際化と次世代リーダーの育成を目指します。

活動の三大方針

(国際交流分野) #国際交流 #地域

1. 多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう

自分の暮らす地域への理解を深め、地域への誇りと当事者意識を持ち、国際交流活動を推進します。

(青少年育成分野) #青年 #人づくり

2. 次世代のグローバルリーダーを育てよう

世界各国との交流や視野を広める機会を青年と共に作り、青少年の国際的な友好や相互理解の促進と協調精神を高めることで、地域から世界に向けてグローバルに活躍する次世代のリーダー人材を育成します。

(社会貢献分野) #地域 #社会貢献

3. 多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう

会員のリーダーシップ、ネットワーク、専門性を活用し、社会課題の解決に取り組むことで、地域に暮らす一人ひとりが人間性を高め、だれもが生き生きと暮らせる社会の実現に貢献します。

II. 令和4年度の重点取組

外へ、未来へ、楽しく

IYEO では、引き続き活動の三大方針である「1. 多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう」「2. 次世代のグローバルリーダーを育てよう」「3. 多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう」を掲げ、日本全国にいる IYEO 会員と共に「外へ、未来へ、楽しく」をテーマに活動してまいります。

昨今の地政学リスク、テクノロジーの発展、新型コロナウイルス感染症などの影響で、世の中がかつてない速さで変化しています。殆どの方が数年前の働き方やコミュニケーションの取り方が大きく変わり、「人との交流」にも大きな変化が起きている事を肌で感じているのではないのでしょうか。

IYEO を取り巻く環境も大きく変わり、活動の柱の一つである人材育成プログラムもオンラインでの開催を余儀なくされ、対面交流だからこそ肌で感じる事が出来る参加者同士の化学反応や成長に触れることが出来ないことは非常に

残念です。

一方で、オンラインだからこそそのメリットもあり、場所に捉われず非常に多くの国や地域からの参加が増え、多様性に富んだ参加メンバーが非常に目立つようになりました。

今まではなかなか地方には情報が届きにくかったり移動コストがかかるため参加しづらかったりした方々が、オンラインで参加できることによって居住地に捉われず参加の機会を得ることができるようになった事はとても大きな良い変化だと言えます。

様々な環境の変化に適合するために IYEO も改革を進めており、今までの「同窓会組織」としての活動とその強化に加え、今年度から「社会貢献活動の育成」に力を入れます。

また、多くの人に魅力的な IYEO の活動を知ってもらい、それらの活動と一緒に関わってもらえるようにステークホルダー目線での「活動情報の発信」や、効率的で効果的な組織運営を行うための「DX 推進」に取り組みます。

【チーム別重点取組】

1. IYEO 事務局

《ミッション》

「IYEO に入って良かった」と思われる団体に

《ゴール》

- ・ 名簿のメールアドレス登録率の向上(42%→60%)
- ・ 新入会員の活動定着：事後活動参加率の向上
- ・ IYEO 役員、都道府県 IYEO の運営負荷の軽減
- ・ IYEO 会員アクティブ率(※)の向上
※IYEO 会員登録者数に対する運営参画人数の比率

2. 戦略チーム

《ミッション》

持続可能な運営体制の構築

《ゴール》

- ・ 人材育成セミナー（仮称）の立案と実行
- ・ IYEO ラーニングプログラムの実行
- ・ 規約・制度の最適化
- ・ 関係団体と連携し、運営資金獲得方法の検討と実績を作る。
※社会貢献チームと協働し、情報調査と収集

3. 社会貢献チーム

《ミッション》

- ・ 事後活動の受け皿の一つとして社会貢献軸のコミュニティを組成し、都道府県、事業軸以外の X 軸事後活動の創出・サポート
- ・ 社会課題解決活動に興味のある会員、及びローカルユースを巻き込み、IYEO 活動に繋げる。
- ・ 社会貢献軸の活動を収益化する。

《ゴール》

- ・ 社会貢献軸のコミュニティ定義を確立する。
- ・ 社会貢献軸の事後活動の創出・サポートスキームを確立する。
- ・ 財政チームと協働し、マネタイズの一役を担う。
- ・ IYEO のフラッグシップ事業を創出する。
- ・ 会員の社会貢献軸活動へのエンゲージメントを上げる。

4. 財政チーム

《ミッション》

- ・ IYEO 活動の財政基盤の整備
- ・ マネタイズのノウハウの蓄積
- ・ IYEO 助成金（ファンド）の管理

《ゴール》

- ・ 財政基盤整備の柱と計画表の作成
- ・ サポーター制度の確立
- ・ 助成金取得のフレームワークを作る。
- ・ 助成金を活用し、IYEO 活動をサポートする（全国大会・ブロックイベント含む）。
- ・ IYEO の特長（国際交流・地方創生・共生社会）を活かせる入札案件の調査

5. 事業チーム

《ミッション》

- ・ IYEO 会員の各出身国際交流事業を軸とした縦・横のつながりを創出・強化し、同窓会組織としての IYEO の意義を打ち出す。
- ・ 同窓会組織として、人と出会い刺激を受ける機会を提供する。
- ・ 事業軸のつながりを作ることで事後活動の創出に寄与する。
※都道府県、社会貢献軸との協働も目指す。
- ・ 事業を横断した連携にも力を入れる。

《ゴール》

- ・ 日中、日韓は従来通りに同窓会・連絡会議を実施する。
- ・ 令和 4 年度より新たに船事業およびコアは同窓会実行委員を組織し、IYEO 主催の同窓会を開催する。航空機事業は、派遣国ごとではなく、年度ごとの参加者のつながりを作る企画を、まずは近年の参加者を対象に実施する。

- ・ 同窓会の実施にあたり、新規の事業参加者を同窓会実行委員に取り込む。
- ・ 同窓会実施のフレームワークを作る。
※基本的に事業参加の翌年度
※令和4年度については、前年度より前の事業参加者にも実行委員に入ってもらうことを検討
- ・ IYEO ウェブサイトに各同窓会の活動報告を掲載する。
- ・ 広報チームと連携し、内閣府事業の認知度向上のための広報に協力する。

6. 都道府県チーム

《ミッション》

- ・ 内閣府青年国際交流事業の経験を活かし、国際交流を通じた人材育成
- ・ 地域の活性化と地域の魅力発信
- ・ 地域の未来を切り拓く人材育成組織
- ・ わくわくする地域づくりへの貢献

《ゴール》

- ・ ブロック間及び都道府県間の持続的な共創関係の構築
- ・ 都道府県活動の効果的な情報発信とネットワークの醸成
- ・ 会員のアクティブ率を高めるための仕組みの整備
- ・ 全国大会やブロックイベントの在り方の再定義の着手
- ・ 財政基盤整備の柱と計画表の作成

7. 広報チーム

《ミッション》

- ・ IYEO の対外的な認知度、および知名度を上げる。
- ・ IYEO 会員に対して対外・内向けの存在意義、ミッションを浸透させる。

《ゴール》

- ・ 広報チームを組成し IYEO Re-Branding を行う。
- ・ ターゲットの再定義と広報戦略の立案
- ・ Re-Branding に合わせた IYEO ウェブサイトへの刷新
- ・ 発信コンテンツを能動的に収集する記者グループの導入
- ・ 都道府県、事業、社会貢献軸の活動を広く発信する。

国際交流 x 共生社会

